

2012年7月10日

第34号

獨協医科大学病院だより

— Dokkyo Medical University Hospital News —



日本医療機能評価機構 日本医療機能評価機構認定病院

平成24年(2012年)

7月



第34号

部 門 紹 介

◆◆◆ 放射線部 ◆◆◆

放射線部は病院の中央部門の一翼を担っており、各診療科からの依頼で業務が行われています。構成員は放射線科医師16名、診療放射線技師62名、事務職員15名、看護職員31名です。各検査室で行なわれている主な業務内容をご紹介します。

①一般撮影検査室

エックス線を使用し、胸部・腹部をはじめ頭から足まで、からだのあらゆる部位を撮影しています。最新の機器により、撮影した画像を瞬時に確認できるようになりました。骨密度検査（骨粗しょう症の検査）やマンモグラフィー（乳房撮影）も行っています。



②CT検査室

CT検査では、人体の周囲を回転しながらエックス線を出すことにより、からだの内部構造を精密に調べることができます。短時間の息止めで、連続する輪切りの画像が得られます。造影剤を使用することで、血流の情報も含めた画像を撮影できます。

③透視検査室

透視検査では、エックス線を用いてリアルタイムにからだの内部を観察することができます。人間ドックや検診にも取り入れられている胃の造影検査では、バリウムという薬を飲んでもらい、薬が食道から胃に移動する様子を観察したり、胃の壁にバリウムを付着させて写真を撮ったりします。その他にも、大腸の造影検査（注腸）、脱臼・骨折の整復、脊髓腔の造影（ミエログラフィー）、胆道等に対するIVR(Interventional radiology)など、種々の検査・治療を行っています。

④血管撮影検査室

カテーテルという管を血管内に挿入し、造影剤を注入しながらエックス線で撮影することで血管を画像化する検査です。急性心筋梗塞・脳出血・外傷性出血などの急を要する検査・治療には、24時間体制で対応しています。

⑤MR検査室

MRI装置は、強い磁石と電磁波を使って体内の状態を診断する検査です。様々な方向から見た断面像を得ることが可能です。検査中は音が大きく、狭いスペースで安静にしておくことが求められますが、得られた画像は病気の診断にとっても役立ちます。使用される磁石や電磁波による人体への影響はありません。手術などで体内に金属がある場合は、検査ができないことがあります。



MRI装置

⑥核医学検査室

放射線を出す薬（放射性医薬品）を投与し、薬の代謝を画像化する検査です。目的に合わせた放射性医薬品を投与してシンチカメラで撮像し、得られたデータを解析することにより、各種代謝機能の評価や病巣の診断を行います。PETセンターにあるPETも核医学検査の一つです。

⑦放射線治療

RI棟1階にあり、放射線治療専門医が外来診療に当たっています。放射線治療は、リニアックという装置で発生させた放射線で治療を行います。他にも脳神経外科と連携しガンマナイフと呼ばれる脳定位放射線治療装置を使用した治療を行っています。



ガンマナイフ装置

- 詳しい検査の内容は、放射線部ホームページ

(<http://www.dokkyomed.ac.jp/dep-m/housya/>) をご覧ください。

- 検査に関してのお問い合わせは、放射線部受付まで (TEL : 0282-87-2177)

当院の災害時医療支援体制について

～災害派遣医療チームDMAT～



災害派遣医療チームDMAT（ディーマツ）とは？

DMATとは、厚生労働省により「災害の急性期(発災後概ね48時間以内)に活動できる訓練を受けた医療チーム」と定義されており、災害派遣医療チーム **Disaster Medical Assistance Team** の頭文字をとって略してDMAT（ディーマツ）と呼ばれています。

DMATは、医師、看護師、事務職員等5名前後の隊員で構成され、大規模災害や多重事故等で多傷病者が発生した事故現場等に迅速に出動し、現地での災害医療活動を行います。



陸上自衛隊基地での航空機への傷病者搭載訓練の様子

現在当院では合計3チームが構成されており、有事に備え定期的な訓練を実施しています。

【DMATの主な災害医療活動】

①「現場救護活動」

行政機関、消防、警察、自衛隊等の救助活動と並行し、災害現場で負傷者のトリアージや救命医療活動を実施します。



②「病院支援活動」

大規模震災等により負傷者が多数搬送される被災地内の医療機関の病院機能を維持拡充するために被災地医療機関へ赴き、医療活動を支援します。



③「広域医療搬送支援」

大規模震災等で多数の重症患者が発生した際に、被災地内医療機関の負担を軽減・分散するため、負傷者を被災地の外の医療機関に陸上自衛隊航空機等で搬送します。



東日本大震災における当院DMATの災害医療活動状況

当院では昨年の東日本大震災直後よりDMATを被災地へ派遣し、医療支援活動を実施いたしました。被災地では、水道断水・電話回線の不通などがありましたが、日頃の訓練を生かし被災地内医療機関の支援を実施いたしました。

① 3月11日から翌12日

→栃木県北の被災医療機関にて病院支援活動を実施し、重症者を当院を含めた県央の災害拠点病院へ搬送しました。



DMATによる患者搬送トリアージ



患者搬送のため集結した救急車



県内他DMATとのミーティング

② 3月12日から14日

→宮城県仙台市の救急医療機関にてトリアージ・負傷者の治療等の医療支援活動を実施。主に救命救急センターの業務に従事しました。また、ドクターヘリの派遣も行いました。



運び込まれた負傷者のトリアージ



3月12日の仙台市内の様子（ドクターヘリより）



宮城県へ派遣したドクターヘリ

このようにDMATは機動性、専門性を生かした多岐にわたる医療支援活動を行います。今回の震災では、日本全国各地のDMATが震災直後より被災地内に参集し、活動しました。

DMATが出動している場面に遭遇しましたら、みなさまのご理解とご協力をお願いいたします。

院内助産ルーム—絆—

産科病棟内にオープンしました！



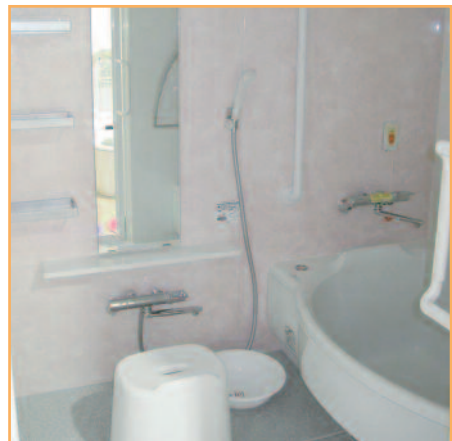
総合周産期母子医療センター産科部門に、「院内助産ルーム—絆—」を開設しました。「院内助産ルーム—絆—」は、産婦さんが“主人公”になって出産ができるよう、助産師がサポートするお部屋です。必要な時には医師も側にいます。



「院内助産ルーム—絆—」は写真のように、マンションの和室のような落ち着いた作りをしています。

ここの部屋には、お産になるまでの陣痛を和らげるたくさんのグッズや、お産をより進めるための工夫がたくさん施されています。

例えば、「お風呂」。湯船にゆっくりつかるとは、身体を心から温め、血液の循環をよくなり、陣痛のパワーを強めてくれます。一方で、お風呂につかっていると、浮力の関係もあり、陣痛からくる体の痛みや疲れが和らぎます。



さらに、ソファには「マッサージクッション」が置いてあります。これは、体験してみると実に気持ちよくリラックスできるグッズです。

また、お産の時には「寝たまま」より「座ったり」「立ったり」することでスムーズなお産になるといわれています。そのため、トイレで座ったり、自由に動き回れるようフローリング&畳になっています。靴を脱いで過ごせるので、出産に立ち会うご家族の方も、くつろげると好評です！



“「院内助産ルーム—絆—」で出産してみたい！”など興味のある方は、当院産科外来・または産科病棟にお問い合わせ下さい。

栃木トヨペット株式会社様より福祉車両・車椅子を寄贈いただきました



左から吉松育美様、稲葉学長、新井代表取締役社長

モンゴル児童患者受け入れのニュースを聞き、本学の国際貢献事業に深い感銘を受けられたことにより行われたものです。

車両贈呈式では、新井代表取締役社長と2012ミスインターナショナル日本代表の吉松育美様から稲葉学長にゴールドキーと目録が手渡されました。

寄贈頂いた福祉車両及び車いすは当院において、訪問看護事業及び外来患者様にご使用いただき、有効に活用させていただきます。職員一同心より御礼申し上げます。

なお、2012ミスインターナショナル日本代表の吉松育美様は、トヨタ自動車株式会社が取り組んでいる「グリーンキャンペーン（緑化活動）」に“緑の大使”として来県することに併せての来学となりました。

去る5月24日（木）、本学において栃木トヨペット株式会社より当院への福祉車両「ラクティス」1台及び車いす20台の寄贈式が執り行われました。

今回の寄贈は、同社が昭和31年創業以来の「経営理念」とCSR（Corporate Social Responsibility：企業の社会的責任）に基づき、社会公共福祉への貢献を目的とした他、新井代表取締役社長が当院の



災害発生時におけるみなさまへのお願い

当院は災害拠点病院に指定されており、大規模災害等が発生した場合の多数負傷者受入に備えております。

当院では、外来会計・薬局待合ホールのいすの一部に、大規模災害発生時の医療活動に備えて、緊急診療用として診療台兼用タイプのいすを設置しております。

万一、大規模災害またはこれに準じる災害が発生した場合には、外来会計・薬局待合ホールは診療区域として利用させていただき、災害医療を優先させていただくことがありますので、みなさまのご理解とご協力をお願いいたします。



通常時



災害時：緊急診療台として使用します



当院ではホームページを開設し、当院の最新情報を発信しております。

公開講座開催のご案内や外来曜日別担当医一覧表の掲載、また栃木県ドクターヘリの出動実績等も公開しております。是非ご活用ください。

<http://www.dokkyomed.ac.jp/hosp-m/>

看護師募集

○当院では看護師を募集しております。

詳細につきましては、下記窓口までお気軽にお問合わせください。

〒321-0293

栃木県下都賀郡壬生町北小林880

獨協医科大学病院 看護部

受付時間

平日 9:00～16:00

土曜日 9:00～14:00（第3土除く）

TEL：0282-87-2395

FAX：0282-87-2382



獨協医科大学病院だより第34号

〒321-0293

栃木県下都賀郡壬生町大字北小林880番地

TEL 0282-86-1111（代表） FAX 0282-86-4775

当広報誌は当院ホームページよりご覧いただけます。



<http://www.dokkyomed.ac.jp/hosp-m/>

発行年月日／平成24年7月10日

編集・発行／獨協医科大学病院広報誌委員会

印刷／株松井ピ・テ・オ・印刷